

ボランティア

物書き
東京都公認大道芸女装
(ドラッグクイーン)
森村明生
Akio Morimura

こ

こ数年の間に、日本の各地で、ゲイ関係の大きなイベントがいくつも行われるようになってきました。東京や札幌のパレード、映画祭、新宿二丁目や堂山、名古屋、博多のお祭り等々……。そして、それら大型イベントのほとんどが、ボランティアスタッフによって運営されています。いや、イベントだけではありません。ゲイリブ団体やHIV感染者支援団体から、地方都市のクラブパーティーのスタッフに至るまで、日本のゲイコミュニティは「ボランティア

アによって支えられている」と言っても、過言ではないのです。その背景としては、日本の「ゲイ・マーケット」の存在がまだ市場に十分に認識されていないこと、「ゲイ・マーケット」自体も潤沢であるとは言いがたいこと、「マイノリティのための活動」が、資本主義の論理とは相容れない性格を持つていること、などが挙げられます。この項では、そんな「ゲイコミュニティ内におけるボランティア活動」について、考えてみましょう。

ボランティアに関わる動機は、人それぞれです。イベントに(客として)参加するだけでは物足りなくなってきた運営側に回る人もいれば、「コミュニティに貢献したい」という使命感をもって関わる人もいます。友人に誘われ、なりゆきで関わらざるをえなかった人もいれば、生きがい求めてやってくる人もいます。「ボランティア」と聞くと、すぐに「偽善的」だの「自己満足」だの「好きでやってるんでしょ？」だのといった言葉を投げつけ



る人がいますが、それはあまりにも乱暴である、と言えましょう。

「ゲイの友だちが欲しいけれど、バーやクラブに行く勇気がない」「ゲイの人に出会っても、何を話したらいいかわからない」という人は、時間等の都合がつくようであれば、サークルに入るノリで、何らかのボランティア活動に関わってみると良いかもしれません。目的意識もはっきりしていますし、一緒に作業をする以上、お互いにコミュニケーションをとらざるをえません。イベントが成功すれば、達成感も仲間意識も生まれます。「ゲイの友だちを作る」上では、かなり有効な場であると言えましょう。ボランティアに関わる場合（特に始めのうち）は、ストレスをためないためにも、「自分が楽しんでやれる範囲でやる」ことを心がけ、他人からの評価はあまり期待しない方が良くかと思われまます。

一方で、そういったイベントに「客として」参加される方は、もしイベントを楽しんだり、ボランティアスタツ

フの活動によって何らかの恩恵を受けた場合、「ありがとう」「楽しかった」といった言葉の一つや二つは、かけるようにしましょう。万が一楽しめなかった場合でも、せめて「お疲れ様ぐらいは言いましたよ。また、人間が（しかも限られた時間と予算の中で）やることですから、いろいろと不備な点が目につくかもしれませんが、ボランティアスタッフにあまり多くを望みすぎたり、足りないものを数え上げたりするのはやめましょう。実際にやってみるとわかりますが、何百人、何千人規模のイベントを運営したり、価値観の多様性を認めつつ団体活動を行ったりするのは、大変なことですよ。時間も金も持ち出しのボランティアにとつて、「人が喜んでくれる」ことだけが唯一の報酬なのです。文句など言われたら、みな「やっつてられっかつ」という気持ちになりますし、そんなことが続けば、いつかコミュニティにとつて必要なイベントや活動自体が姿を消してしまふ、なんて事態になりかね

ません。「それでも別に構わない」と言うなら、話は別ですが。

ところで、最近の「ゲイコミュニティ」のボランティア活動には、「異性愛者」もかなり参加しています。ゲイの中には、それを「ノンケのくせに、何ぞ？」と言って煙たがる人もいるようですが、あまり感心できることではありません。なぜなら、「たかがセクシュアリティ程度（もちろん、国籍等に関しても同様ですが）で、人と人との間に壁が作れないような社会を目指す」ことこそが、「ゲイコミュニティ」の活動の最大の目的であるからです。「仲間」はどこにでもいるのだ、ということをしちんと理解しましょう。

ゲイ アクティヴィズム

評論家
伏見憲明

Noriaki Fushimi

時

代は変わりつつあるとはいえ、社会には同性愛に対する偏見や差別が根強くはびこっています。メディアでゲイを揶揄する表現は多いし、学校などでいじめは言うまでもなく、夜の公園等でゲイ・パッシングのような暴力事件が起ることさえあります。意識調査などを見ると、若年層の同性愛に対する肯定的な傾向とは裏腹に、中高年の世代における否定的な価値観を確認することもできます。

こうした世の中で暮らす同性愛者

は、同じセクシュアリティを共有する仲間との私的な関係以外では、異性愛者のふりをして生きることが余儀なくされます。家族との関係も、結婚などをめぐって軋轢を生じるケースが少なくありません。ゲイコミュニティに関するようになって、ゲイライフを積極的に楽しめるようになったとしても、ブライベート（ゲイ空間）とパブリック（非ゲイ空間）の線引きをすることによってなんとかバランスを保って暮らしているのが、私たちゲイの現実でしょう。

そういう被差別状況を改善するために起こされるアクションが、ゲイアクティヴィズム（ゲイリブ）です。それにはさまざまな活動があります。差別事件を裁判で訴えること、メディアでなされた差別報道を告発すること、レズビアン&ゲイパレードなどによる示威行動、ゲイ・スタディーズやクイア・スタディーズといった学問研究、同性愛に関する書籍の出版、それぞれの場合・人間関係におけるカ

ミングアウト、サポートグループの運営、講演会やパーティ・イベントの開催、HIVの啓発活動、メディアでの自己表現――。やり方はいくつもありまじ、やるべきこともたくさんあります。どれが「正しい」アクティヴィズムであると言うことはできません。より良い状況を実現するために、それぞれの必要とやる気によって実践される試みが、アクティヴィズムだとするのはいいでしょう。

もちろん、ゲイだからといってそれらの活動に関わらなくてはならないということはありません。しかし、現在の私たちが以前に比べて相対的に自由を実感できるのも、過去にそうした活動が国内外で展開されてきたからであることは間違いない、その恩恵を自らが参加することによってさらに大きな実りにしていくのは、意義のあることではないでしょうか。今後も育ってくる次世代のゲイたちに、より生きやすい社会を準備してあげることが、「大人」としての一つの役割でも

あるかもしれません。

ところで、これからの時代に、そうした活動をしていく上で心掛けるべきことがあります。それは、自分の「痛み」を特権化、普遍化しない態度でしよう。

同性愛ということで差別されているからといって、あなたがこの世界における絶対的な「弱者」とは言えません。人は、いくつもの属性や立場が交錯する存在です。例えば、ゲイであっても、お金持ちで才能にめぐまれている人もいれば、ストリート（異性愛者）であっても貧乏で平凡な能力しか持たない人もいます。障害者で社会的に権力を持っている人もいれば、順風満帆な人生を歩んでいても突然不幸にみまわれる人もいます。そうした固有の人生が寄せ集まってできている社会の中で、ゲイであることが一番不幸であったり、もっとも弱い立場である

と言いつけることはできないでしょう。そう、私たち同性愛者は、ある側面においては「弱者集団」であるし、

社会的に不利益を被る存在であるわけですが、それは一つの観点からの相対的な位置関係でしかないのです。ゲイにかぎらず、どんなマイノリティに関しても同様のことが言えます。差別に対して敢然と闘うことはすばらしいことですが、そのときに自分を絶対的な正義の立場に置かないことは、これからの反差別運動を実践していく上での、ひとつの作法でしょう。

そういう意識が欠けていては、さまざまな利害関係が錯綜する現実社会において、独善的な人間だと見なされかねませんし、反差別を願う言葉自体、第三者には届かなくなってしまうかもしれません。成熟社会の日本では、もはや体制と反体制、差別者と被差別者といった二元的なものの方をしていては、問題を解決することはできず、複雑な人間関係を調整することは不可能なのです。

だからこそ、多様な人々といっしょに社会を構成し、運営していくのだという自覚を持つことが要求されます。

いたずらに行政やアカデミズムのような機構に敵対するのではなく、それらと協力し合いながら、ムーブメントを押し進めていくことが肝要でしょう。ときに対立することがあっても、無用な被害者意識や、マイノリティの倒錯した特権意識を捨てて、理性的に社会や他者と向き合うことを勧めます。

ですから、私たちは、「言葉狩り」のような行為に走ることは戒めた方がよいと考えます。そうした活動が結局は被差別者をアンタツチャブルな領域に囲い込むことに加担し、現実を隠蔽することにしかならなかったのは歴史の示す通りです。たとえメディアなどで、差別的に用いられる場合が多い「オカマ」「ホモ」などの言葉を見掛けても、まず、それがどういった文脈で使用されているのかをよく精査することが必要でしょう。

大切なのは、言葉を消し去ることではなく、使用者にそれを用いることが誰かを貶めている可能性があること

とを気づかせることなのです。そうしたコミュニケーションによって初めて、差別の現状は相手に伝わります。それに、こちらから真摯なコミュニケーションの場を作っていけないかぎり、表面的な応対をされるだけで問題は片づけられてしまいませう。マスコミなどは、条件反射的に当該の言葉を禁止するだけで、本当に差別の内実を考慮しようとはしてくれません。

また、言葉の意味するところも時代によって変化します。現在、ゲイムーブメントの中で公的に使われている「ゲイ」「同性愛者」という言葉だつて、一昔前には「差別語」として用いられていました。逆に、「オカマ」という言葉が、近年ではゲイコミュニケーションで肯定的に語られるようになってきたという傾向もあります。悪いのは言葉自体ではなく、それが用いられる文脈に他ありません。もちろん、それに問題がありと判断されるのなら、私たちは断固としてその表現を問題にすべきでしょう。ただし、その

ときの態度も、傲慢にならず、感情に流されず、説得力をもって。

私たちが獲得すべきものは、自己満足な達成感ではなく、人々の心の変化だということを、努努力忘れてはいけません。

JaNP+(ジャンプ・プラス)代表
長谷川博史
Hiroshi Hasegawa

キ

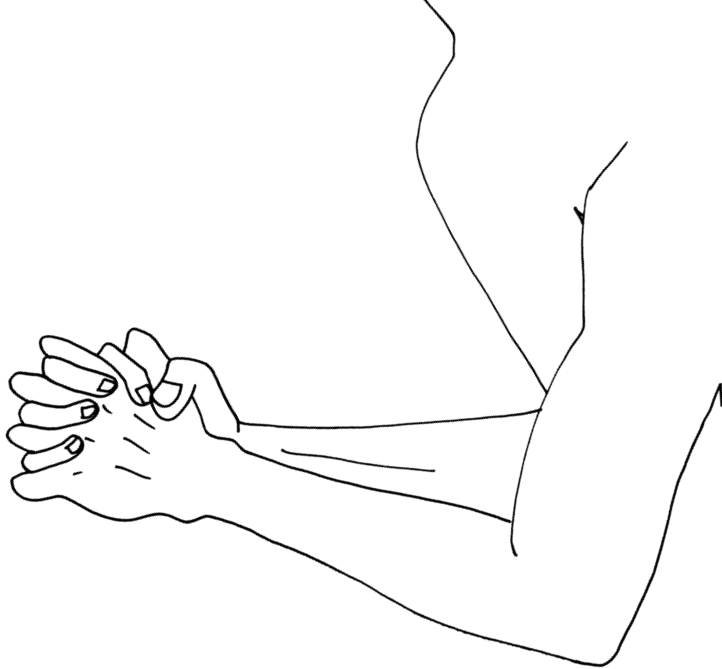
リスト教では愛情をアガペー(神の愛のような無償の愛情)、フィリア(友愛)、エロス(性的な愛情)と分けて理解するという。つまり、私たち同性愛者

が異性愛者と決定的に異なるのはエロスの対象が同性に向かう点だ。

普通、セックスについてオープンに話すとき「下品だ」とか「はしたない」とたしなめられる。学校でも子供を作るためのセックスについては教えてもらっても、人と愛情を確かめたり深めたりするために行うセックスや、お楽しみのためだけにするセックスについてはほとんど教えてくれない。ましてビジネスとしてセックスをする人たちのことなどまるで存在していないも同然の扱いだ。

それはなぜだろう？ 世の中では子供を作るためのセックスが崇高で、コミュニケーションやお楽しみのためのセックスは卑しいものだという序列を付けているのだ。お金のためのセックスをすることなどともつての他と考えるといる人も少なくない。

しかしセックスはとても個人的な問題。他人や家族や国や社会にとやかく言われる筋合いのものではない。他人を傷つけたり、誰かの意志に反して



セックスはしないのだから、子供を作るためのセックスこそが崇高だという考え方は、私たちの存在そのものを否定するものでしかない。

動物には発情期があるが人間にはない。発情期は動物が子育てに都合の良い季節に合わせて出産するように遺伝子に組み込まれた種の保存のための本能だ。しかしいつも子供を育てることのできる環境を確保できるようになったからこそ人間は子作りのためのセックスから解放され、純粹にセックスそのものを楽しむことができるようになった。セックスは人間ならではの文化的な行為とも言える。

さらに、どんな物事に性的な興奮をするかというのもそれぞれ個人によって異なる。この性的興奮を喚起するイメージをセックスファンタジーと言う。同じ同性愛者でも男性的な要素に興奮することもあれば、女性的な要素に興奮する人もいる。たとえば男性の同性愛者の場合、短い髪や遅い筋肉などの男性性をあらわす

物に欲情を掻き立てられることもあるし、人物とは関係なくレザーや制服といった衣服などの物に性的興奮を掻き立てられる場合もある。これをフェティシズム(呪物)という。個人差はあるもののこういった何か性的なものを象徴するものによって性的な興奮を喚起されるフェティッシュ(呪物的)なセックスファンタジーを私たちは持つている。

いっぽう大事にされると感じたり、乱暴なくらい強く求められていると感じる時に強く興奮することもある。相手が自分に欲情していると感じる時に性的興奮が沸き上がることも多い。このようにセックスパートナーとの関係性が興奮を生む場合もある。個人がどんなセックスファンタジーを持つと、やはりここでも人の価値やセックスそのものに貴賤の差があるわけではない。

ゲイのセックスのアナルセックスやフェラチオが、特殊なものであるのかのように取り上げられることがある。そ

強要したりさえしなければ、自分がどんなセックスをするかは自分の責任で決めてかまわない。

つまり愛情溢れるセックスも、一晩限りのお楽しみも、自分が責任を持つ

て行うお仕事としてのセックスも、どれが気高くてどれが下品だと他人に決めてもらう必要はないのだ。第一私たちゲイは同性同士でセックスをするわけで、初めから子供を作るための

れはセックスと生殖を短絡的に結び付けているために、挿入と射精を対にした偏狭なセックス観から来るものだと言える。その性行動が同性間であり異性間であれ、子作りを目的としない場合は挿入も射精もセックスにとつて必須の行為ではない。異性愛の女性にも男性にもアナルセックスを好む人たちはいるし、フェラチオなどのオーラルセックスをタブー視する傾向は近年著しく弱くなっている。アナルセックスやオーラルセックスはゲイ独特のセックススタイルと解釈するのは誤りで、むしろ「生殖から解放された文化の中で多様化する性行動」ととらえるほうが現実的だ。

ただし多様であることと多様なすべてを享受しなければならないということは別問題だ。たとえばどれだけアナルセックスがゲイにとつて一般的になってきたからといって、自分の意志に反してまで行う必要はないし、相手から強要されることもない。あくまでも自分で決めることなのだ。

また、ここで注意しておきたいのは、セックスがいかに多様でそれぞれに自由であつても他人と行う行為だということ。セックスはある意味で、ファンタジーを共有しつつお互いに微妙に異なる欲情のメカニズムを相互に刺激しあう行為、だと解釈できる。自分勝手な一方通行の行為は相手の欲情を減退させると同時に、結果的に自分も楽しめない。ファンタジーがセックスをする両者のうち一方に偏ると、相手はその分現実には引き戻される。つまりお互いに相手のファンタジーを理解しあうコミュニケーション能力と、尊重しあう姿勢が楽しいセックスをする上では必要だ。

またお互いを興奮させるのがファンタジーであり、現実とは別物だということも重要だ。『現職の××』とか『本物の○○』といった現実がファンタジーを強化し増幅させることもあるが、基本的にファンタジーである以上は非現実でかまわない。たとえばSMにおいて心底相手を憎いと思つて

加虐的な行為をするわけではないし、本当に嫌な人間の行為を許すわけではない。あくまでもファンタジーの共有という合意があればこそお互いに非日常を楽しめる。これを逸脱すると暴行、傷害、強制猥褻といった犯罪行為になってしまう可能性もある。

快楽は罪ではない。ゲイとして生きる喜びのひとつは、性の快楽を心置きなく楽しむことにある。むしろ快楽は使い次第で、同性愛者である自分を祝福するための強力な武器にもなる。できることならすべての同性愛者がゲイで良かったと思える素敵なセックスを体験して欲しい。

ハッテン場

コピーライター・
ゲイバー経営
福島光生
Mitsuo Fukushima

ハッテン場はゲイの社会の中で、最大の発明なんじゃないかなあ。それは自分のセクシュアリティ(性的指向)を明らかにできないような大昔から、多分、存在していたんじゃないかと思われるんだけど、特定の公園や公衆便所が出会いの場所であつたことは想像にかたくないよね。必要は発明の母、つてところかな。

この、夜の公園や公衆便所が出会いの場になる、というのはあらゆる国で共通なようで、色々な話をよく聞く。

でもあくまで公共の場であるから国によつては警察の取り締まりもあるし、公園などでは暴力事件や恐喝などもある。出入りするためのハードルが低いかわりに、とてもリスクも高い場所である事も、よく知っておく必要があると思うよ。

で、比較的安全なのはゲイばかりが集まる有料のハッテン場。ここではノンケの人に手を出したとか、ノンケが「ホモ狩」と称して暴力をふるうことがない、閉ざされた世界なんだ。確認できた情報ではないけれど、昭和40年代にはすでに「旅館」と称する、浴場と相部屋が完備されたハッテン場が都内に数件存在していたらしい。セックスを求める人が相手を買うわけではなく、セックスを求める人同士を集めて勝手によろしくやってもらうこのシステムは、ノンケ社会では考えられない、すごく進んだシステムだと思うよ。ま、モラル的なことを言いだせばきりがないんだけど、行きたくない人は行かなければいいわけで、こうい

うチョイスがあることこそ文化的に豊かなんだと思うな。

ハッテン場にはいくつかタイプがある。大型の建物ひとつが丸ごとハッテン場である「サウナ／旅館タイプ」。ここにはサウナ、浴場、ミックスルームといわれる休息所、有料で数時間か一晚借りられる個室、場合によってはジムや飲食スペースなど、多くの人を集めるような設備が揃っている。それとは別にマンションなど建物の一室や一部を使って営業しているのが「マンションタイプ」。これは多岐に渡っていてビデオボックスの体裁をとって多くの仕切りをつくり個室がいくつもあるタイプや、個室はほとんどなく、仕切りがあつて迷路のようになっているタイプ。浴室とミックスルームだけのサウナタイプを小型にしたようなタイプなど、それぞれ個性的な展開をしている。来店したらすぐ服を脱いでしまいう脱衣系と、服を着たままにいる着



衣系にも大別できるんだけど、着衣系の店でも時間や曜日で脱衣系に変わったたりするので、その店の広告などをよくチェックして、「サウナ／旅館タイプ」は基本的にタイプを限定せず、あらゆる年代や体型の人が来る。しかし「マンションタイプ」はその店の個性を出すために年齢や体型などを限定している場合があるからそれらも要チェック。

ハッテン場では、言葉はほとんど必要ない。いいな、と思った人がいたら、じつと見つめる。目が合うようならその人についていけばいい。何も手を出されなかつたり手を出しても逃げられるようなら深追いはダメ。それが最低限のマナーだといえるんじゃないかな。もちろんダメなのは大声で騒いだり、相手にされなかつたからといって人をののしつたり、暴力をふるつたり、酔っぱらつて来たりすることだけ、ま、それは言わずもがな、ということ。

マナーと言えばセイファーセックス。

ハッテン場に行くということは「不特定多数の人と性的交渉を持つ」ということだから、HIVをはじめとするSTD（性感染症）には細心の注意が必要だ。たとえ一人の人としかセックスをしていなくても、その人が100人としていれば、自分は100人分のリスクを負うと思つていた方がいい。アナルセックスの時には必ずコンドームを使う、精液や体液を飲まない、アナルをなめない、などセイファーなセックスをしよう。これが守れないなら病気に感染しに行くようなものだと思つていた方がいい。セイファーなセックスを嫌がるような人はハイリスクな人だと思つてセックスをやめる勇気を持ちたい。魅力的な人ほどハイリスクだと思つていた方がいいくらいだ。カッコいい人ほど誘いは多いわけだからね。

ハッテン場は本当に手軽にセックスを得られてしまう場所だ。新しい人と出会ふかもしれない、気持ちいいことができるかもしれないというドキド

キ感ほ、たまらなく甘い誘惑だ。でもそれを癖にして欲しくないな。積み重ねていけばすくなく無駄な時間とお金を費やしてしまうことにもなりかねない。セックステクニクを磨いたり、色々な人を見たりするためにハッテン場は必要な場所だと思ふし、誰でも一度は癖になって通う場所だとも思ふ。だけどバランス感覚を持つて自分の生活に取り入れれないと、危ないと、僕は思ふな。コントロールするのは、君の意志しだいだよ。

性と健康

JaNP+(ジャンプ・プラス)代表
長谷川博史
Hiroshi Hasegawa

私

たちは極めて性的な存在だ。それをとがめることは誰にもできないし、私たち自身それを否定的に感じる必要もさらさらない。しかし、セックスにはさまざまなリスクがつきものだ。

その中ですべてに共通しているのが性感染症の問題だ。梅毒、クラミジア、淋病、尖形コンジローマ、アเมอร์バ赤痢、等々。セックスの際に感染する病気が実にたくさんある。その中でも最近HIV感染症と呼ばれるようになったエイズや、A型、B型、C型

等のウイルス性肝炎などは命さえ危うくすることがある。

こういった性感染症はかつて性病と呼ばれ、どことなく後ろめたさが付きままとった。そのネガティブなイメージは、私たちが育ってきた社会に通奏低音のように流れている性を嫌悪する風潮によって形作られている。ところが実際はセックスはほとんど誰もが行う行為であり、性感染症はセックスをする人ならすべて関係のある問題だ。

またゲイというセクシュアリティに対する不寛容が、心の中でセックスへの否定的なイメージを増幅したりもする。そんな私たちの姿勢から、現実には性感染症にかかる危険性を十分に感じながらも、キチンと検査を受け、必要な治療を受けられないこともある。

近代国家に住む私たちには健康である権利が保証されている。癌や心臓病などの生活習慣病の予防や治療体制に政府は膨大な予算を組む。し

かし、HIV登場以前に性感染症が問題にされたことがあったらどうか。本来性感染症も、過食や美食によってもたらされる糖尿病や心臓病などの生活習慣病と同等にとらえられ、それなりの対策が打たれてしかるべきだ。

社会の現状がどうであれ、自分の健康には自分で責任を持つしかない。HIVやC型肝炎など治癒できないものも幾つかあるが、幸い現代の医学では多くの性感染症は早期発見早期治療で対処できる。またすべての性感染症は原因も究明され予防法も明らかになっている。

しかしセックスには多くの場合相手が存在する。それは単数の場合もあれば複数の場合もある。また相手が一定期間特定される場合もあれば、毎回異なる場合もある。私たちのセックスのアクティビティは活発でネットワークは広い。そして、それ自体なんの問題もない。性感染症の問題が取り沙汰される時、必ず不特定多数と

の性交渉をやめて特定の相手に限定すべきだと純潔主義を唱える。有識者が登場する。はつきり言って大きなお世話であるし、これは疫学的にもまったく誤った考え方である。

同性愛者であれ異性愛者であれ同一のセックスパートナーとの関係が永遠不変であることは稀である。つまりある時点で特定のパートナーにセックスが限定されることはあっても、それはあくまでも期限付きでしかない場合がほとんどだ。1人の人間に過去平均10人のセックスパートナーが存在したとして、自分もまた過去10人と性的な関係をもつたとすると、自分は10の10乗、つまり100億人のセックスネットワークの中心にいることになる。現時点でたった一人のセックスパートナーしかいないとしても、不特定多数の人間と性的関係を持たないことが何の予防にもならないことが良く解る。

性と健康の問題が、セクシュアリティの多様性と密接に関係し性的少

数者の問題である以上、ゲイは独自の視点で自分達の健康を確保していく必要がある。さらにセックスが個人の問題で他人に指示されるべき問題でないことを考えれば、自分なりに責任を持てる範囲の安全基準を持つべきだろう。それが自分なりのセーフティーセックスのやり方だ。

性感染症の多くが接触感染であることからコンドームの使用は性的健康を維持するために有効な手段でもっとも広く推奨されている。しかし何が何でもコンドームというわけではない。アナルセックスや口腔内の粘膜を傷つけるようなオーラルセックスを避けることで、HIV感染のリスクは大幅に軽減することもできる。しかしそれ以外の感染症にかかるリスクは大いに残る。

ここで問題になるのは自分がそのリスクをどこまで引き受けることができるかだ。必ずしも性感染症にかかることが悪で、かからないことが善では

ない。場合によっては未だ完治できないHIVやC型肝炎に感染する自由もある。それを他人は責めることはできないし、道徳などを持ち出して非難する事は前述の「有識者」と大差ない。

しかし、そのことと感染するというリスクを冷静かつ客観的に認識できているかという事とはまったくの別問題。目先の出来事に判断力をなくして将来の大きなデメリットから目を逸らしていないか、良く考える必要がある。また、他人に感染させることの心理的な負担に耐えられるかどうかという点も考えておくべきだ。基本的には自己責任だとは言っても、世の中は未だ性に寛容ではなく、場合によっては法的な責任をとられることもある。多様なケースを想定してどの病気なら感染してもかまわないと判断するのか、感染した場合はどう対処するのか、具体的に細かく想定しておく必要がある。そういった姿勢を持つこ

とが自分の健康に責任を持つということではないだろうか。

性の健康の問題は、社会やコミュニティの問題であると同時に、一人ひとり、自分自身の問題なのだ。

性感染症

医師・AGP副代表
井戸田 一朗
Ichirou Itoda

性

感染症とは、エッチをすることで、人から人へうつる病気、特に感染症のことで、ゲイの間で問題になる性感染症は、以下の9種類です。

①梅毒

②肝炎(A、B、C)

③淋病

④クラミジア尿道炎

⑤アトピー赤痢

⑥毛ジラミ

⑦尖圭コンジローマ

⑧単純ヘルペス

⑨HIV

人は、古くからいろんな性感染症と共生してきました。中にはゲイのセックスに特有な病気や、近年新たにでてきた病気もあります。性感染症は、ゲイに身近な存在です。セックスをしている人なら誰でもかかる可能性があり、恥ずかしいことはありません。でも、いざ病気にかかると、気も弱くなるし、辛いものです。病気にかからない工夫について、そしてかかってしまった場合の対処について併せて解説します。性感染症全体に言えることですが、ある性感染症にかかっていると、他の性感染症もダブルトリプルに同時にかかっていることがよくあります。ある性感染症にかかっ

性感染症の採血結果

	大坂での陽性者数	名古屋での陽性者数
HIV	401名中13名(3.2%)	148名中4名(2.7%)
B型肝炎	401名中6名(1.5%)	145名中4名(2.8%)
梅毒	401名中38名(9.5%)	142名中22名(15.5%)

※感染して治癒した人も含まれる。
実施:MASH大阪、エンジェルライフ名古屋(2001)

てしまったら、HIVの検査もしましょう。最寄のHIV検査機関はHIV検査コム、「HIV検査・相談マップ」<http://www.hivkensu.com>で調べられます。なお、HIVは、感染してから検査で分かるようになるまでは3ヶ月間かかります。心配なエッチがあったら、その期間はセーフアーなセックスにこころがけながら待つて、検査を受けてください。

参考までに、2001年に大阪と名古屋で行われた、ゲイ対象の検査

相談イベントでの、3種類の性感染
症の採血結果をお示しします。

梅毒

これは、梅毒トレポネーマという細菌の一種によって引き起こされる、全身の感染症です。近年、世界各国のゲイコミュニティでアウトブレイク(発生)が報告されています。日本も例に漏れず、2001年に、大阪でのゲイを対象とした検査では、10人に1人は梅毒にかかっていることが分かりました。薬できちんと治りますが、一生のうち、何度でもかかります。抗生剤がある現代では、昔のように重症化することはまずありませんが、エッチで人から人へうつりやすいこと、そして、梅毒を持っているとHIVにもかかりやすくなるのが問題点です。

感染経路●接触(ベニス同士、アナル

とベニス、口とベニス)

潜伏期間●3週間

症状●感染した箇所(通常はベニス、口、お尻の周り)に、痛くないできもの(皮膚がえぐれる潰瘍)ができ、足の付け根のリンパ節が腫れる。3〜6週間ほどすると、ベニスのできものは消える。が、今度は全身に梅毒がまわって、体に赤い発疹ができる。手や足のひら、体の柔らかい皮膚などに多い

治療●抗生剤を3週間内服

かかったら●皮膚科、性病科を受診

肝炎

ゲイの間で特に問題となっているのは、A型、B型、C型肝炎です。それぞれ、異なるウイルスに感染することで、肝臓に炎症が起きる病気で。A型とB型肝炎はワクチンで完全に予防することができます。エッチをするすべてのゲイは、A/B型肝炎ワクチンを打つことが勧められます。

最寄のワクチンを打てる機関は、こちら「海外渡航者のための感染症情報

報」<http://www.orth.go.jp/>の「住所録

↓予防接種機関」で調べられます。ワクチンは健康保険が使えず、1本2千円から1万円と大きなばらつきがあるので、あらかじめ電話をかけて調べてから受診されるのを勧めます。なお、A型肝炎が、ゲイの間で性感染症として流行しているということを知らない医療者がいることがあるので、そういう場合は、東南アジアに旅行に行くから、とおっしゃっていた

だければOKです。ワクチンを打つても、他の性感染症は防げないので、やはりセーフター・セックスに気をつけたいです。肝炎で死ぬこともごく稀にありますし、何とんでも入院が何週間も必要となることを考えれば、ワクチンで予防した方がはるかに安上がりです。C型肝炎にはワクチンはまだありませんが、HIVにかからないようなセックスを心掛けることで予防ができます。

感染経路●A型II経口(便を直接・間

接的になることで感染)。B・C型II血液・精液(コンドーム無しのアナルセックスIIタチモウケモ)

潜伏期間●A型II15〜45日。B型II50日〜半年。C型II8週間

症状●A・B型は急に症状が出て、1〜2ヶ月程度の入院で回復する。0.3〜2%の人は、劇症肝炎となって重症化することがある。A型II発熱、黄疸(白目や皮膚が黄色くなる)、尿が濃くなる、だるさ。B型II黄疸、尿が濃くなる、だるさ。C型II慢性肝炎となり、肝硬変、肝臓癌に発展することがある。

治療●入院して寝るだけ。A・B型はワクチンで予防可能

かかったら●内科(消化器内科)を受診

淋病

淋菌という細菌が尿道に入って炎症を起こします。おしっこをする時の

痛みと尿道からの白い膿がとてはつきりしています。エッチでもらってから、発症するまでの期間がとても短い(数日)のが特徴です。すぐに泌尿器科もしくは性病科へ行きましょう。

感染経路●尿道からの分泌物との接触

潜伏期間●1〜4日

症状●排尿時の痛み、尿道から白い膿

治療●抗生剤を1〜3日内服、同時にクラミジアも感染している可能性が高いため、クラミジアの治療(後述)も行う

かかったら●泌尿器科、性病科を受診

クラミジア性尿道炎

痛みと尿道からの排膿は、淋病ほどはつきりはしていません。症状も比較的マイルドで、気付かない人も。

感染経路●尿道からの分泌物との接触

潜伏期間●2〜30日

症状●排尿時のかゆみ・痛み、透明な

膿

治療●抗生剤を1〜10日間内服

かかったら●泌尿器科、性病科を受診

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は、感染している人の便が、直接もしくは間接的に口に入ること感染します。アナルをなめなくても、指をなめながらお尻に指を入れたり、お尻をさわった手で体をさわりながらなめたり、誰かのお尻に入っていたペニスをしゃぶったりすれば、感染することがあります。通常はアメーバ性大腸炎といって、血便・下痢・熱を発症しますが、約半数の人は、大腸炎を経験しないで、感染して半年くらい後、肝臓に膿のかたまりを作ってしまうことがあります。これを、アメーバ性肝膿瘍といいます。アメーバ性肝膿瘍は、症状はかなり辛く、入院になります。しかし、内服薬だけできれいに治ります。もし、肝臓に膿があつて、おなかに管を入れ

て膿を出しましょう、と担当医に言われたら、すかさず、アメーバ赤痢の可能性はどうでしょう?と聞きましよう。

感染経路●経口(便を直接・間接的になめることで感染)

潜伏期間●大腸炎117日間。肝膿瘍115ヶ月以上

症状●大腸炎11血便、下痢、発熱、腹痛。肝膿瘍11右上腹部痛、発熱、下痢

治療●大腸炎11抗生剤を10日間内服。肝膿瘍11入院して抗生剤を20日間内服

診

かかったら●内科(消化器内科)を受診

毛ジラミ

感染経路●接触

潜伏期間●4週間

症状●陰部に猛烈なカユミがあつたら、陰毛をよく観察。毛に、斜めに小さな卵が乗つていたら、薬局へ直行!

治療●薬局で「スミリンシャンプー」を買って、自分で治す。説明書をよく読んで

かかったら●自分で薬局へ

尖圭コンジローマ

ヒトパピローマウイルスという、ウイルスが原因でできるイボの一種です。ゲイにとっても多い性感染症ですが、ノンケにも見られます。治療になかなか時間がかかる、やっかいなものですが、根気よくがんばりましょう。中には、症状がないけれどこのウイルスを持っているひともいるため、見た目にはその人が感染しているかどうかは分かりません。そこが、この性感染症の予防を難しくしている点です。

なお、雁(カ)の周囲に等間隔に並んでいる、白っぽい1ミリメートル以内のぶつぶつは、尖圭コンジローマではなく、正常です。Pearly Penile Papuleといって、日本語訳はありませんが、あえて訳せば、真珠様陰茎小隆起、と

でもいいでしょうが。

感染経路●ベニス同士、ベニスとアナルの接触

潜伏期間●4〜6週間

症状●1〜5ミリの黒から肌色のできもの（痛みなし）がぶつぶつとたくさんできる（アナルの周り、ベニス）

治療●液体窒素、もしくはポドフィリン軟膏で腐らせる、根気よく治療
かかったら●皮膚科、性病科を受診

単純ヘルペス

ゲイの場合、アナルの周りにできることが多いようです。かなり痛く、まず気付きませす。抗生剤ですぐによくなるので、早めに皮膚科もしくは性病科へ行きましょう。体が疲れたり、ストレスがかかると、再発することがありますが、初回ほど痛みはありません。

感染経路●ベニス同士、ベニスとアナルの接触

潜伏期間●2〜20日

症状●痛みのある水ぶくれ

治療●抗生剤7〜10日間内服、治しても再発することがある
かかったら●皮膚科、性病科を受診

HIV 「ヒト免疫不全ウイルス」

HIVは、感染すると、次第に体の抵抗力が弱くなる性感染症です。感染して8年以上たつて、ある程度抵抗力が弱くなると、さまざまな性感染症にかかりやすくなり、体が弱ってしまいます。そうした状態をAIDS（エイズ、後天性免疫不全症候群）といいます。1996年にカクテル療法（3〜4種類の抗HIV薬の内服薬を組み合わせ、HIVの増殖を抑える治療）が登場してから、この病気で亡くなる人はとても少なくなりました。この病気のことをよく知って

体とウイルスと薬と上手に付き合うことで、20年近く長生きできるようなりましした。それでも20年、と思われるかもしれないが、その間にさらに有効な治療法が登場する可能性は大いにあります。なお、薬は、感染が分かってからすぐに始める必要はありません。体の抵抗力がある程度低くなるまで待つのが今の方法です。始めたら簡単にやめるわけにはいきません。続けることはとても大変なことです。

HIVはアナルセックスやフェラチオの時にコンドームを使うことで予防ができる病気です。

感染経路●血液・精液（コンドーム無しのアナルセックス・タチ、ウケとも）、フェラチオ（くわえる側）

潜伏期間●8年

症状●感染して3週間ほどして、インフルエンザ様症状がでることあり。でないこともあり。感染してから平均8年間は無症状。ある程度免疫能力が下がってくると、通常の免疫状態ではか

からないけれど、免疫が低くなるとかかる感染症（日和見感染症、e xカリニ肺炎、結核、帯状疱疹、カンジタ症など）にかかりやすくなる。

治療●①日和見感染症の予防 ②日和見感染症の治療 ③体の免疫能力CD4値が200くらいになつてきたら、カクテル療法

かかったら●サポート団体（ぶれいす東京、HIVと人権情報センター、アカーなど）へまず電話

性感染症の予防の基本は、アナルセックスをするとき、あなたがウケであっても、タチであっても、相手ごとな人であっても、コンドームを使うことです。口内射精や精液を飲み込むことは勧められません（精液には血液同様、さまざまな病原体が含まれている可能性があります。最後に、肝炎のワクチンを打つておくことが大切です。

残念ながら、梅毒、淋病、クラミジア尿道炎、毛ジラミ、尖圭コンジロー

マ、そして単純ヘルペスは、接触（ペニスとペニス、ペニスと口、ペニスとお尻など）しただけでも感染してしまうことがあり、アナルセックスのときにコンドームを使うことだけでは防げません。また、中には性感染症にかかっても、症状が出ない人がいます。ここに性感染症の予防と対策が難しい要因があります。ただ、アナルセックスのときに、コンドームを使うことで、こうした性感染症にかかる可能性は低くすることができます。が、100%安全なセックスはありません。キスでうつる性感染症はとも少ない、ということとは言えます。

フェラチオは、いろんな性感染症にかかる可能性のある行為です。誰かのペニスをしゃぶることで、梅毒、淋病、クラミジア尿道炎、単純ヘルペス、そして可能性は低いけれどHIVにかかると、梅毒、淋病、クラミジア尿道炎、単純ヘルペスにかかる可能性があります。フェラチオをどう考えるか、ですが、もしHIVも含めたリスクを最小限にしたいのであれば、誰に対してもコンドームをつけてからしゃぶる、ということになります。HIVのリスクは低いし、その他の性感染症は薬で一応治るから、という考

えて、コンドームをつけない、という考えがあるかもしれません。あるいはその中庸を取って、ハッテン場や、よく知らない相手の場合だけコンドームを使う、という考えもあるかもしれません。その線引きは、個人個人で考えていただくしかありません。いざ、性感染症にかかってしまった……という方は、前述の受診科を参考に、イエローページやホームページなどで調べて受診するのがいいでしょう。健康保険が使えるかどうか、予約が必要かどうか、あらかじめ問い合わせしておくことをお勧めします。ゲイに対して偏見がないかどうかは、

行ってみるまで分かりませんが、多くの性病科の先生方は、ゲイの診療経験があります。今は患者さんが医者を選べる時代です。必ずしも自分がゲイであることを言わなくても構いません。ノンケだつてかかる病気ばかりです。心配なところはちゃんと先生に診てもらい、思い当たるエッチがあった日を覚えていたら、先生に教えてあげましょう。肝炎とアメーバ赤痢は、消化器内科がある病院がいいでしょう。